研究報告

輸出用茶栽培のためのコミカンアブラムシ防除農薬の検討と同種虫体および寄生芽の混入が茶の品質に及ぼす影響

福岡県農林業総合試験場八女分場　井上梨絵*

はじめに

海外における緑茶の需要は増加しており，全国で海外輸出を目指す動きが活発になっている（農林水産省，2020 a）。これに伴い，福岡県では，EU，台湾向けの抹茶や玉露を生産する被覆茶園が増加している（井上ら，2021）。これらの輸出用茶栽培では，輸出相手国の残留農薬基準値（MRL：Maximum Residue Limit，以下 MRL と略す）への対応が必要であるが，チャを栽培していない輸出相手国では，MRL が設定されている農薬が少ない，あるいは極端に低い MRL が設定されているため，日本国内で一般的な防除により栽培している緑茶をそのまま輸出することは困難な状況にある（日本茶輸出促進協議会，2018）。

一番茶期に防除が必要となる害虫は，主としてカンザワハダニ *Tetranychus kanzawai*（Kishida），コミカンアブラムシ *Toxoptera aurantii*（Boyer de Fonscolombe），ツマグロアオカスミカメ *Apolygus spinolae*（Meyer-Dür）の 3 種であるが，輸出用茶栽培では輸出相手国の MRL に対応するため慣行栽培に比べて使用可能な農薬が制限される（農林水産省，2016）。カンザワハダニ，ツマグロアオカスミカメについては，福岡県の主要な輸出相手国である EU および台湾の MRL をクリアーできる農薬が複数種類存在するが，コミカンアブラムシに対しては，EU，台湾向けの被覆茶栽培で有効かつ輸出相手国の MRL をクリアーできる農薬がない。EU 向け茶栽培では，コミカンアブラムシに適用があり，日本と同等の MRL が設定されている農薬としてチアメトキサム水溶剤がある。しかし，被覆条件下では本成分の一部がクロチアニジンに変化することが知られており，EU ではクロチアニジンの MRL が日本と比較して極めて低く設定されているため使用が難しい（農林水産省，2016）。また，台湾向けでは，コミカンアブラムシに適用があり MRL が設定された農薬はあるが，日本の設定値よりも低く（農林水産省，2016），被覆条件下では農薬成分が光分解を受けにくいため，MRL をクリアーすることが難しい。そのため，農薬使用基準に登録された摘採前日数よりも事前に散布する等の対策が必要である。

コミカンアブラムシは，体長約 1.6 mm，だ円形，体色は暗褐色または黒褐色をした多食性の害虫で，チャでは特に新芽に寄生・吸汁し（図-1），被覆茶園で多発する傾向がある（南川・刑部，1979）。農薬に対しては概して弱い害虫であるが，繁殖力が極めて旺盛で，摘採間

図-1　新芽に寄生するコミカンアブラムシ

植物防疫

Searching for Control Pesticides of the Black Citrus Aphid, *Toxoptera aurantii*, for Growing Tea for Export and the Effect of Insect Contamination on Tea Quality.　By Rie Inoue

（キーワード：防除，チャ，コミカンアブラムシ，MRL，輸出）

*現所属：福岡県農林水産部園芸振興課